

平成30年度 総合情報基盤センター 外部評価報告

1. はじめに

総合情報基盤センター（以下、「本センター」）では、改組前（法人化前）の学術情報処理センターの頃より、毎年の自己点検評価に加えて、平成26年度までは4年ごと、平成28年度からは2年ごとに外部評価を実施してきた。平成30年度は外部評価の年度にあたり、平成28年度及び平成29年度を対象に、平成30年12月に外部評価を実施した。平成30年度の外部評価委員は、以下の2名の方々に依頼した（50音順）。

菰田 秀三 株式会社佐賀電算センター 代表取締役専務

杉谷 賢一 熊本大学 総合情報統括センター長

外部評価委員会では、本センターの活動全般についての説明に続いて、質疑応答を行い、本センター（本庄地区）及び附属図書館の視察の後、総括質疑を行った。

2. 外部評価委員会概要

日時	平成30年12月12日（水）14時～17時
場所	事務局2階大会議室
出席者	外部評価委員 菰田 秀三 株式会社佐賀電算センター 代表取締役専務 杉谷 賢一 熊本大学 総合情報統括センター長 佐賀大学 松前総合情報基盤センター長，只木総合情報基盤センター副センター長，堀総合情報基盤センター副センター長
陪席者	総合情報基盤センター 日永田准教授，大谷准教授，江藤助教，小野技術専門員，松原技術専門職員，田中技術専門職員 情報管理課 浅岡情報管理課長，牟田口情報管理課専門職，原田情報管理課事務員，内田情報管理課事務員，西畑情報管理課事務員

(1) 次第

- 14:00 開会挨拶
(佐賀大学総合情報基盤センター長 松前 進)
- 14:05 佐賀大学総合情報基盤センター概況報告
(佐賀大学総合情報基盤センター副センター長 只木 進一)
- 14:45 質疑応答
- 15:05 佐賀大学総合情報基盤センター及び附属図書館視察
- 15:30 休憩
- 16:00 質疑応答
- 16:30 外部評価委員講評
- 16:45 閉会挨拶
(佐賀大学総合情報基盤センター長 松前 進)
- 17:00 閉会

(2) 質疑応答

- 各委員会の位置付け
- ネットワーク管理体制
- 認証の自動化手法
- 生涯ID付与
- ハウジングの提供
- グループウェアの運用
- 鍋島キャンパスの管理，対応体制
- 事務端末の対応，保守手法
- 業務範囲の整理
- 技術者の外部研修，教育
- Opengate 開発の経緯
- 人事データ入力の体制
- 大学評価システム
- 相互監査の手法
- C I S O
- 電子図書館設置の経緯

(3) 講評

- データ連携等，挑戦とフィードバックの実績が優れる
- 点検評価，外部評価，内部評価を通じて改善を続けてほしい
- 今後，対応等業務範囲の見直しが必要になると思われる

3. 評価概要

(1) 自己点検・評価の体制については，体制を確立し，毎年自己点検評価報告書を作成，改善に役立てていることを評価していただいた。

(2) 理念と目標については，広範な業務を対象としているにもかかわらず，明確化された目的達成のための業務を，現在の体制で活動していることを評価していただいた。

しかしながら，業務に対し人的資源の不足が危惧され，本センターの目標や業務内容，人的資源の増強について大学上層部と検討を始めてはどうかという助言がなされた。

(3) 情報基盤の整備と運用については，統合認証の早期導入や他システムとの連携を評価していただいた。また，毎年開催している統合認証シンポジウムや，電子メールをクラウドに切り替えたことも高く評価していただいた。

(4) センター管理のシステムについては，運用コストの低減や情報セキュリティ強化に注力したシステム構成を評価していただいた。また，サーバールームやパソコン演習室，電子図書館等の施設が時代の変化に合わせて対応しており，統合認証システムや Opengate の開発等の積極的関与によりユーザーの使い勝手の良いシステムになっている点について評価していただいた。

一方，システムが多岐にわたるため人的コストがかかっており，新しいサービスを検討・提供するためにも人的資源増強は解決すべき課題だと指摘された。

(5) 教育活動については，大学院の講義や，学生の研究指導に加え，様々な利用者向け講習やセキュリティ講習を適宜改善しながら毎年継続して実施している点を評価いただいた。また，学生の研究指導を通じて学生目線の意見を獲得でき，システムや業務の発展へつながるのではないかと助言がなされた。

研究活動については、Opengateの開発等、一般性が高く、業務上も重要な研究成果を上げている点、統合認証シンポジウムを毎年実施することで情報交換ができる場になっている点を評価いただいた。

一方で、研究費受け入れ実績がここ数年少なく積極的な取り組みが求められることが指摘された他、研究指導において新しい分野の着手を検討しても良いのではとの助言がなされた。

(6) 教員配置については、多様な業務を遂行し、自己点検・評価を継続し外部評価も取り入れながらPDCAサイクルを実施している点を高く評価いただいた。

一方で負担が大きく、教員の増員を検討すべきとの助言がなされた。

(7) 事務機構については、教員組織支援だけではなく、各システム管理業務を行い、本センターの現行組織で統括管理運営している点を評価された。一方で慢性的な業務過多が危惧される点が懸念され、人的資源の増強や業務分担の見直しが必要である旨、また事務職員が情報システムに関する技術的知識・能力を習得できる仕組みや取得後のキャリアパス、業務の変化に備え適宜対策が打てるような体制の構築の必要性が指摘された。

(8) 大学運営に対する貢献、国際交流、社会との連携については、事務情報システム更新時に様々な支援をしている他、大学評価活動にもデータベースの整備推進に関わりリーダー的存在であること、国際会議の出席や発表、佐賀県情報化関連審議会委員としての活動や国際交流等を評価していただいた。

(9) 外部評価の体制について、自己点検と各委員会での報告書チェックが実施され、また三大学によるセキュリティ相互監査が行われていることから、二年に一回の外部評価実施は適切なものであると評価いただいた。また、外部評価委員会の実施体制は十分であり、特に大学関係者だけでなくシステム関連企業の方を委員としている点を、高く評価いただいた。

(10) 組織の活動に関することについて、ミーティングや運用委員会を短い間隔で定期的に行い情報共有がなされ運用が組織的に実施されていること、統合認証システムやOpengate等の機能改善を継続的に行っていること、統合認証シンポジウムを毎年開催していることを評価していただいた。

(11) 前回の外部評価での指摘事項に対する対応について、システム調達に

反映されていることや、メールシステムのクラウドを利用したシステムへの移行といったアウトソースの活用、マネジメント研修への参加、情報セキュリティ e-learning の受講率等について評価していただいた。

(12) その他の意見として、本センターの web ページがユーザーフレンドリーであること、独自開発の Opengate をオープンソースとして公開していることを評価いただいた。

また今後の課題として、最新技術に対応するため外部研修やセミナーへの参加が重要となることや、外注化可能な業務についてはこれまで以上に外部リソースを活用すべきということ、IT 技術の転換に伴い本センターの目的や目標等を検討する時期にきていること、外部資金獲得手段として Opengate の有償導入サポートが有効である可能性について指摘があった。

4. まとめ

最初に、ご多忙のなか外部評価を実施していただいた委員の皆様には感謝いたします。我々総合情報基盤センターの活動内容を理解いただき、適切な評価、指摘、助言をいただくことができました。また、資料作成、委員の方との調整、会場準備などでご協力いただいたセンター及び情報管理課のみなさんにも感謝いたします。

外部評価の結果は、概ね良好であったと考えます。ご指摘いただいた事項の中で、「業務内容に対し、総合情報基盤センターの人的資源が不足している。現在の広範囲な業務負荷に対応するために、人材・組織体制の増強が必要である」との指摘は、これまでの外部評価でも毎回指摘されてきたものであり、今回の外部評価でも両委員の報告書の中で繰り返し何度も指摘されています。総合情報基盤センターの業務内容の見直しや、人的資源の増強が急務であると考えます。

ご指摘いただいた課題については、いただいた提案、助言なども参考にしながら、改善に向けて取り組んでいきたいと考えています。